

## 2018年度 第21回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2018年度は、2つのプロジェクトを表彰しました。

表彰式は、2019年4月6日（土）、関西支部総会に引き続いて開催し、表彰状及び楯の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションと、パネルディスカッションを行いました。



受賞のみなさんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員

### <第21回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

#### ① 関西まちづくり賞

##### 『多様な主体の連携による伊丹郷町のまち育て

##### ～公民連携による伊丹版メインストリート・プログラムの展開～』

受賞者：伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹まち未来株式会社、伊丹酒蔵通り協議会、

いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まちなかバル実行委員会、伊丹商工会議所、伊丹市、  
株式会社地域計画建築研究所

伊丹市の中心市街地に位置する「伊丹郷町（いたみごうちょう）」は、かつての有岡城の城下町にあり江戸時代には「清酒発祥の地」として酒造業が発展、文人墨客の行き交う町として栄えたが、明治以降の宅地化や工業地化、阪神・淡路大震災を経て現在は阪急伊丹駅の復旧復興等により、震災前の活気を取り戻しつつあります。平成17年度策定の「伊丹市景観計画」では伊丹郷町地区を中心とした景観施策が位置づけられ、平成20年度には「伊丹市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けるなど、市も伊丹郷町を中心とした景観とにぎわいのまちづくりを積極的に展開しています。



ご受賞おめでとうございます



伊丹まちなかバル開催時（写真提供：伊丹市）

平成 21 年からは、中心市街地の若手飲食店経営者を中心とする年 2 回の街バル（食べ歩き・飲み歩きイベント）の継続的開催により若手商業者の新しいネットワークが形成されたことで、様々な新しいイベントが開催されるなど中心市街地の賑わいづくりが連鎖的に広がっていきました。その後これらの取り組みは、伊丹市中心市街地活性化協議会や伊丹酒蔵通り協議会など伊丹郷町で活動する様々な団体や行政とも連動し、共通の目標のもと官民が一体となって事業を展開しています。本件では大規模なハード事業によらない中心市街地活性化のための連鎖的な展開が、地区の人口や歩行者を増加させており、まちづくりが賑わい創出につながっています。

## ② 奨励賞

『和歌山市駅周辺の公共空間活用社会実験 「市駅“グリーングリーン”プロジェクト』

受賞者：市駅まちづくり実行会議

（和歌山市駅地区商店街連盟、城北地区 7 自治会、和歌山大学観光学部永瀬研究室）

「グリーングリーン」プロジェクトとは、「glean：拾い集める」と「green：緑、環境にやさしい」をキーワードとし、「緑あふれる、人と環境にやさしいまちづくり」をコンセプトにした社会実験です。



ご受賞おめでとうございます



社会実験時（写真提供：市駅まちづくり実行委員会）

2015年から地元商店街・自治会と和歌山大学永瀬研究室が中心となって、和歌山市駅前通り（市道和歌山市駅前線）の北進車線の一部区間を歩行者天国化し、天然芝のピクニックエリアを中心に、マーケット、オープンカフェ等を設置して「緑と憩いの広場」の創出の試みが始まりました。和歌山市駅前には商店街のシャッター街化や駅ビルからの高島屋の撤退などの地域の衰退が著しく、駅前の再生・にぎわい創出が喫緊の課題となっています。この歩行者天国化に合わせて、近隣を流れる河川を活用した「市堀川クルーズ」や、近隣の店舗や公共施設等を活用して特別なプログラムが体験できる「市駅まちぐるみミュージアム」、さらに2018年度は紀の川河川敷のピクニック広場化などへ展開が見られるなど、地方都市の衰退に対する取り組みとして注目されています。



表彰式の後の、受賞者と関西まちづくり賞委員会委員によるミニ・シンポジウム